

さちひろ

天理教狭千廣分教会の広報紙
1面・真の「男女共同参画社会」を目指して
2面・「すきっと」します
3面・おやさま逸話篇から
4面・教会の動き・編集後記

発行：天理教狭千廣分教会 〒589-0021 大阪狭山市今熊1-1133 072-365-2571

E-mail:wat@sachihiro.com url:http://sachihiro.com 編集兼発行人・山口 渡



近年、ジェンダーフリーの考
え方が広く浸透してきて、男女
の性差による差別をなくそうと
さまざまな動きがあります。し
かし、男女にはそれぞれ特性が
あって、これを生かしていくこ
とも大切なことだとも思います。
* * *
少し前のベストセラー『話を
聞かない男、地図を読めない女』
(アラン・ピーズ、バーバラ・
ピーズ著、主婦の友社刊)は、
なぜ男は一度に一つのことしか
できないのか、なぜ女は方向音
痴なのか、なぜ女はよくしゃべ
るのか、なぜ男は一人つきりに
なりたがるのか…。誰もが納得
する男と女の不思議を紹介し、
脳の違いを知れば男と女はもっ
とわかり合える、と説いています。

と、西欧
が作り出
した近代
世界シス
テムは植

民地主義と人種差別、自然征服
を基調とするものでした。そう
いう世界では、主役はあくまで
「地位と力」を求める男であり、
「関係と協力」を求める女は、
男の所有物、あるいはせいぜい
補助者でしかないことは当然で
しょう。西欧世界の近代世界シ
ステムと女性蔑視とは、同じコ
インの両面と言えそうです。
西洋語では「男」(英語では
man、フランス語では homme)
が、同時に「人」をも意味する
ことから、人権宣言≠男権宣言
とも捉えられます。言語からし
て男性中心なものです。そこで女
(femme)に主義 (isme) をつ
けて、feminisme、すなわち、フェ
ミニズム(女権拡張論)が生ま
れました。
* * *
お道の教えには、そうした西
洋で生まれたフェミニズムとは
趣の違う女性原理が含まれてい
ます。
「この木いもめまつをまつわゆ

八んでな いかなる木いも月日
をもわく(おぶでさき・七号21)
と、教祖のあの時代にいち早く
男女平等を説いておられます。
ジェンダーフリーやフェミニ
ズムの考え方は、お道からして
も、今や遅しの、歓迎すべき動
きだと思えます。
* * *
しかし、世のフェミニズムの
みなさんは、「遅れた」日本女
性たちの先頭を走っているつも
りかも知れませんが、現実には半
周遅れの西欧社会で生まれたフェ
ミニズムを、さらに半周遅れで
追っているに過ぎません。先頭
を走っているのではなく、一周
遅れなのです。わが国のフェミ
ニズムのみならずは、無自覚
な西洋崇拜から目覚めて、日本
の伝統的な男女観、就中この教
えの説く、男女がその違いを対
等に補充しあう真の「男女共同
参画社会」を目指して、真のトツ
プを走ってもらいたいと切に念
ずる次第であります。

真の「男女共同参画社会」を目指して

教会の動き

さちひろ



朝づとめ：毎朝・6時30分
夕づとめ：毎夕・7時00分
元日祭：午前7時・午後1時30分
春季大祭：1月21日午後1時30分
秋季大祭：10月21日午後1時30分
月次祭：毎月21日 午後1時30分
春・秋季霊祭：3月22日、9月22日 午後1時30分
教会の場所は、左の地図の紫マーカー。市立公民館の裏・西側です。

教会の動き



受講料：1500円以上
内容：夫婦関係コース
(1時間30分所要)
「プロ」→「天理教陽気なウ
シ」の道 教への懸念と教系本部
またそのさまざまな活動を紹
介します。
講師：かきもの・かりもの
・講師が身近なテーマを題材に心
とからだの独特な 教えについてお話し します。
「プロ」→「信仰のよさ」・「信仰する人た
ち」の真の姿を紹介 します。
講師：「親補様」・教祖・お道
・ゆきなきい幸せを築くためには何 が大切か 講
師が分かりやすくお話し します。
会場：おやさま公民館(二階階下)(受付も階下ホ
ール)
受講料：500円(の袋に入れてお出してくだ
さい)
開催日時：毎月開催(12月28日・1月1日をのぞく)
平日午後1時30分 土日祝日及び25日 27日午
前9時30分/午後1時30分
《本誌発刊日等特別な日は、開催時間が変わること
があります。詳しくは開催日程表をご覧ください》

受付：開始30分前より
(直接会場にお越しください)
外国語・外国語による開催日は、事前に発表。その
他の日本語開催の場合は、1週間前までに、海外
部分局員課(電話0723652571 内線5348)
に相談ください。
手話講義：油断即まで「布教部」社課(電話04
363151内線5000)に「相談ください」。
詳しくは教会にお問い合わせ下さい。

《編集後記》
9月になって暑い日が続きます。30
年ぶりに天理大雅楽部の合宿に講師とし
て参加しました。受講生の態度といい、
演奏技術の高さといい、わたしが現役だっ
た頃とは隔世の感がありました。
11日は総選挙です。うちの娘も初めて
の投票で、緊張しているみたいです。(わ)

さちひろ 第6号
編集兼発行人・山口 渡
平成17年9月6日
大阪狭山市今熊1丁目1133番地
・072・365・2571



天理の紹介

「すきっと」します



幸せを届ける言葉

お道のメッセージを日常の言葉で伝え、自然な形で社会に届かせるというコンセプトを掲げ、2005年9月に天理教社から発行された『すきっと』と『すきっと』の2冊が好評です。現在『すきっと』の再発行が企画されています。その編集の「コンセプト」について、次のように記されています。人々は、すききり晴ればれた心で暮らしたいと願っています。それをあなただけで表現する「すきっと」に込めようと思います。



現実には、世界の出来事や世の中あり方、すきとにたいして、多く見受けられる。仕事や健康、夫婦や親子など身近なことに、すきとが起ります。いろいろなことを抱えて、私たちがすきととした気分を暮らしたい願っている人々は、大勢

いので、ぜひ読んでほしい。

「すきと」と「すきと」の言葉のニュアンスには、単に「すきと」(癒)も癒めに近付くものではなく、そこからすきとすきととすきと、一歩踏み出す種、そのよみ心身で歩み始める姿勢が感じられます。自分だけが「すきと」した気分にならなくては、自分も人も共に「すきと」した気分を暮らすことが大切だと思えます。「すきと」を通じて、そんな生き方を提案したいと思えます。

「すきと」に託された言葉の内容には、上の写真からのおもろい取組が、いろいろなかたちで広がっています。テーマを決めて、魚界を活躍させている方を迎える「すきと」の記事を、心温まるメッセージで構成されています。

専用のホームページ (<http://sukitto.com>) もあり、ウェブ上で運動して「すきと」の情報が広がります。一度「すきと」(税込500円) ちなみ、中学校の道徳の教科書にも「すきと」と「第5号のインターネット」記事が掲載される予定です。平成18年度の中学校道徳「生きる力」(大阪書籍)です。教師用の指導書「はその出典が明示される由

高橋美津志著『すきととひとこと』より

「家庭崩壊」

ある学校で、給食のときに、「いただきます」「ごちそうさま」と、手を合わせるの、信教の自由をおかす憲法違反だという教員により、給食のときの慣例を廃止したら、児童の多数は食べ物に感謝を忘れ、好き嫌いが始まり、残飯が多くなつた。食の乱れは心の乱れとなり、いつしか食べ物好き嫌いが、人の好き嫌いとなり、校内いじめが始まった。今も、物の有り難さを忘れて、物を粗末にする。家庭の悪い習慣が身につく少年が、他人の命を粗末にしている。人や物を大切にすることを失ったときから、学校や家庭の崩壊が始まる。

『稿本天理教教祖伝逸話篇』 77

教祖は、ある時、増井りんに、「九月九日は、栗の節句と言っているが、栗の節句とは、苦がなくなるといふことである。栗はイガの剛いものである。そのイガをとれば、中に皮があり、又、渋がある。その皮なり渋をとれば、まことに味のよい実が出て来るので。人間も、理を聞いて、イガや渋をとつたら、心につまい味わいを持つようになるのやで。」と、お聞かせ下された。

栗の節句

物をしたり行事をおこなって祝ってきたという歴史がありました。この節日の供物、「節供(せちく)」という言葉が、節日そのものを指すようになって、「節句」ということばになったともいわれます。よく五節句というように、現在にも五つの節句が伝えられています。

1月7日、七草粥で新年を祝う、「人日(じんじつ)の節句」、3月3日、ひなまつりとして有名な、「上巳(じょうみ・じょうし)の節句」、5月5日、男子の成長を祝う、「こどもの日」「端午(たんど)の節句」、7月7日、おり姫、ひこ星の物語で有名な、「七夕(たなばた)の節句」、9月9日、菊花の香りの酒で月をめでる、「重陽(ちようよう)の節句」。それぞれの節句は、宗教行事として、地域のおまつりとして、また子供たちの成長を祝う祝日として、様々な形で私たちの暮らしの中にいきづいていて、いつのことです。

旧暦の9月9日という現在では10月にあたり、ちょうど田畑の収穫も行われる頃、農山村や庶民の間では栗の節句とも呼ばれて栗ご飯などで節句を祝ったという事です。

さかんに行われていた重陽の節句が、現代に引き継がれていないのは、旧暦から新暦にのみが移り、まだ菊が盛んに咲く時期ではなくなりました。大きな玉(玉)が合わせ鏡のような仕組みになっているように思われる。

逸話篇「栗の節句」では、人間の心を栗にたとえて、イガや皮、そして渋をとって、うまい味わいができるような心になれと言われている。栗はいわば人間の真心、真の人格、イガや皮、渋は真の人格の發揮を阻害するもので、除去されるべきものである。どんな人間でもこの味わいのある真の人格をもつて生まれている。しかしそれを發揮できないのは、イガや皮や渋(ほこり、曇り、濁り)があるからである。これをとる、除去する、すなわち、ほこりを払う、曇りをとる、濁りを澄ませばいい。あるは、みかぐらうたにあるように「欲を忘れる」「やさしい心」になれるいいのである。